

合同支部会(研修会&交流懇親会)の開催

11月8日(土)午後から9日(日)にかけて、2年ぶりに合同支部会がホテル「マホロバマイズ三浦」において開催された。

石井理事長の開会の挨拶の後、村岡副理事長からは、全構協の「業績動向調査結果」、「すまいる職場認定制度」、全鉄評の「品質管理体制の維持に関する定期報告の実施と性能評価の失効」などについての説明があった。

研修会は、2部制で、第1部はumiコンサルティング代表/中小企業診断士の籾内康彦氏による「DX化へのはじめの一步～鉄骨加工工場の事例紹介～」という演題で、第2部はグラフィソフトジャパン(株)セールスマネージャーの中村駿氏による「建設業界におけるBIM*AIについて」という演題で開催された。どちらも建設業界におけるDXの現状紹介や、必要性・可能性



籾内康彦氏

「DX化へのはじめの一步」要旨

はじめに、「データとデジタル技術を活用して、ビジネスモデルを変革するとともに、競争上の優位性を確立すること」という経済産業省のDXの定義を紹介し、「アナログデータのデジタル化」「ビジネスプロセスのデジタル化」「新しい価値の創出」という3つのステップを辿ることを説明。

その後、籾内氏が携わった鉄骨加工工場における、Googleスプレッドシートを使った「生産進捗管理システム」の開発・導入事例を紹介した。このシステムの導入により、複数の課題が解決し、外注費を大幅に削減することができたとのこと。

当組合へは、16社の現地調査の結果を踏まえ作業日報の作成、集計のデジタル化をご提案された。



をテーマに、時宜に合った、将来に期待できるお話を伺うことができ、大変有意義な研修であった。

その後、賛助会員との交流懇親会が開催された。賛助会員6社がそれぞれの新商品の紹介や商品の特性などを説明・PRした後、岸部監事・相談役の乾杯の発声により宴が始まり、仕事に関する情報交換が行われるとともに、親睦を深めることができた。

参加者は組合員31名、賛助会員13名、講師2名、鋼構造ジャーナル1名、事務局2名の計49名と盛況であった。



中村駿氏

「建設業界におけるBIM*AIについて」要旨

建設業界では人手不足や情報共有の非効率性が依然として課題となっている。図面や資料が最新状態で共有されないことによる手戻りや追加コストのリスクは高く、業務全体の生産性を下げる要因となっている。こうした状況を踏まえ、設計から施工、維持管理までの情報を一つのモデルに集約するBIMを基軸としたワークフローは、業務プロセス再構築のための重要な手段として国交省も位置付けている。

BIMモデルは形状だけでなく建物の属性情報を持ち、関係者が常に最新情報を共有できる点が大きな特徴である。これにより合意形成が早まり、情報の齟齬や手戻りが減少する。また、複数人が同時に作業できる環境により、設計の整合性や作業スピードが向上する。3Dによる視覚化は発注者にも理解しやすく、説明や承認プロセスの円滑化にもつながる。

AI技術の進展により、建設DXは次の段階へ移行しつつある。設計案の画像生成やBIMソフトの操作支援など、AIが関わる領域は広がり、検討スピードの向上とBIM導入のハードル低減が期待される。BIMとAIを掛け合わせることでデータ活用の範囲がさらに広がり、生産性向上と業務高度化を実現する新しいワークフローが形成されつつある。

Real4などの鉄骨モデルを提供する側からも、BIMに対する意見やデータ受け渡しの理想的なタイミング等発信していくことは重要である。BIMが普及する過程では、設計・施工だけでなく鉄鋼業など建設に関わるあらゆる視点での見え方を共有し、設計施工維持管理において一貫した標準化や実務フローの整理につなげることが不可欠である。私見であるが、協会等団体単位で情報をまとめ発信していくことは、建設業全体のDX推進に寄与し、より実効性のあるBIM活用を後押しする手法であると考えている。

固形エンドタブ溶接技能者技量検定試験が実施された

11月15日（土）9時から、全国Mグレード部会連絡協議会による固形エンドタブ検定試験が、神奈川県立西部総合職業技術校（秦野市）において行われた。受験者は、新規16名、更新21名の合計37名。所属組合別では、神奈川が19名、群馬が9名、東京が6名、長野が2名、千葉が1名。受験者が多いので、待機時間を短縮するため、1部（8:30受付、9:00開始）と2部（9:30受付、10:00開始）の2グループに分けて実技試験を行った。

各部のはじめに、堀川会長（千葉）が新規受験者を対象とした座学で、固形タブを使用するメリット、固形タブの取り付けやアークスタートの位置、溶接条件、外観検査の注意点などを解説した。

続く実技試験では、新規・更新ともに受験者各自が試験体を組立溶接して製作し、受験番号を刻印してから本溶接に臨んだ。溶接終了後、立会検査員が外観検査を行い、試験体の割れ、アンダーカットなど溶接欠陥の有無について、厳正に審査した。

外観検査を通過した試験体は後日、第三者機関の超音波探傷検査、マクロ試験を経て、判定会議で最終的な合否が判定される予定である。

当日は、堀川会長の他、小林専務理事（千葉）、神奈川県Mグレード部会から小原会長、石井元会長、青柳、小泉、佐藤、日向（社長と常務）の7部会員が運営に携わった。

会場をご提供いただき、当日も立ち会ってくださった神奈川県立西部総合職業技術校の古川先生、ありがとうございました。



青年部会研修会（工場見学会）が行われた

合同支部会の当日（11/8）午前中、横須賀市内の組合員「本間興業(株)」「(株)小原鉄工所」「佐原工業(株)」の3社の工場見学会を実施した。

当日は、「本間興業(株)」→「(株)小原鉄工所」→「佐原工業(株)」の順に車で移動し、各工場の設備や生産工程などの説明を受けた。

横須賀市内の人気お寿司屋さんでお寿司&天婦羅の昼食をいただいた後、午後の合同支部会会場へ向かった。

参加者は、青年部会員11名とオブザーバー1名の計12名であった。



関東支部事務職員研修会 【小宮】

令和7年11月12日（水）、「フレンチ料理 榛名」（中央区銀座）において、9都県10名の組合事務局の職員が出席し、研修会が開催された。

当該研修会は1年に1回、各県組合の事務職員が日頃の事務に関して情報・意見交換を行うもので、今回は「SNSの活用」「UT等の講習会」がテーマで、参考になる情報を得られた。

研修会後は、美味しいお料理をいただきながら懇談し、一層親睦を深めることができ、有意義な時間を過ごせた。

